

図 1. GNSS 観測局配置と地震の震央分布。四角で国土地理院が設置した GEONET 観測点を、三角でソフトバンク株式会社により設置された観測点をそれぞれ示す。薄い桃色の丸は、気象庁一元化震源カタログに記載された 2025 年 5 月 1 日から 2025 年 7 月 4 日までのマグニチュード 3 以上の地震の震央を示す。丸の大きさは地震のマグニチュードに対応している。

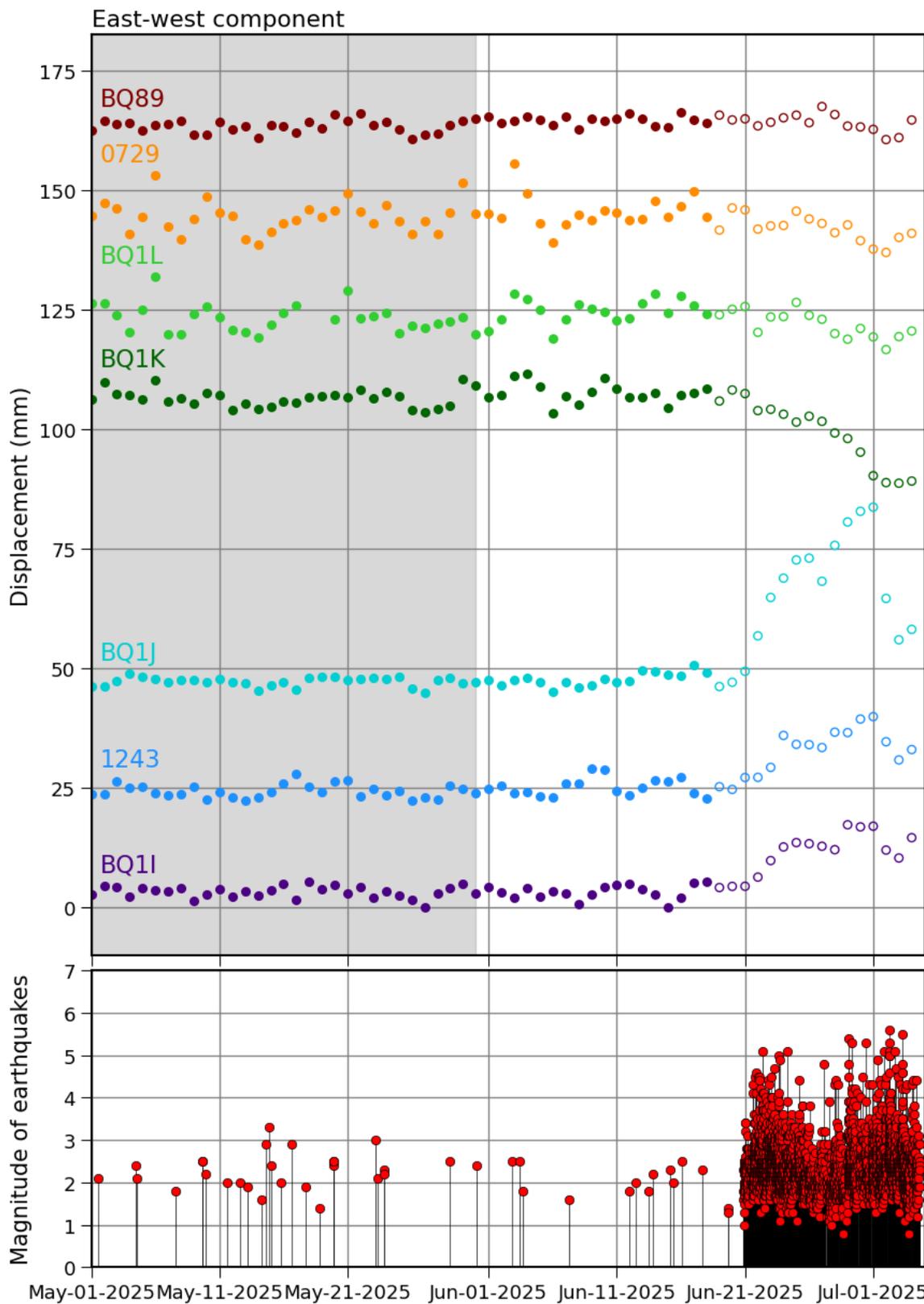


図 2 (a). (上パネル) 各日の座標値 (東西成分) を丸いシンボルで示す。塗りつぶされた丸は最終暦を、白抜きの丸は速報暦を用いて算出された座標値をそれぞれ示す。丸の色の違いは、観測点の違いを表す。また灰色で示された期間は、定常トレンドを推定した期間を表す。(下パネル) 図 1 の領域 (東経 129 度から 130 度、および北緯 29 度から 30 度の矩形領域) 内で発生したマグニチュード 0 以上の地震の M-T 図。図の作成には気象庁一元化震源カタログを用いた。

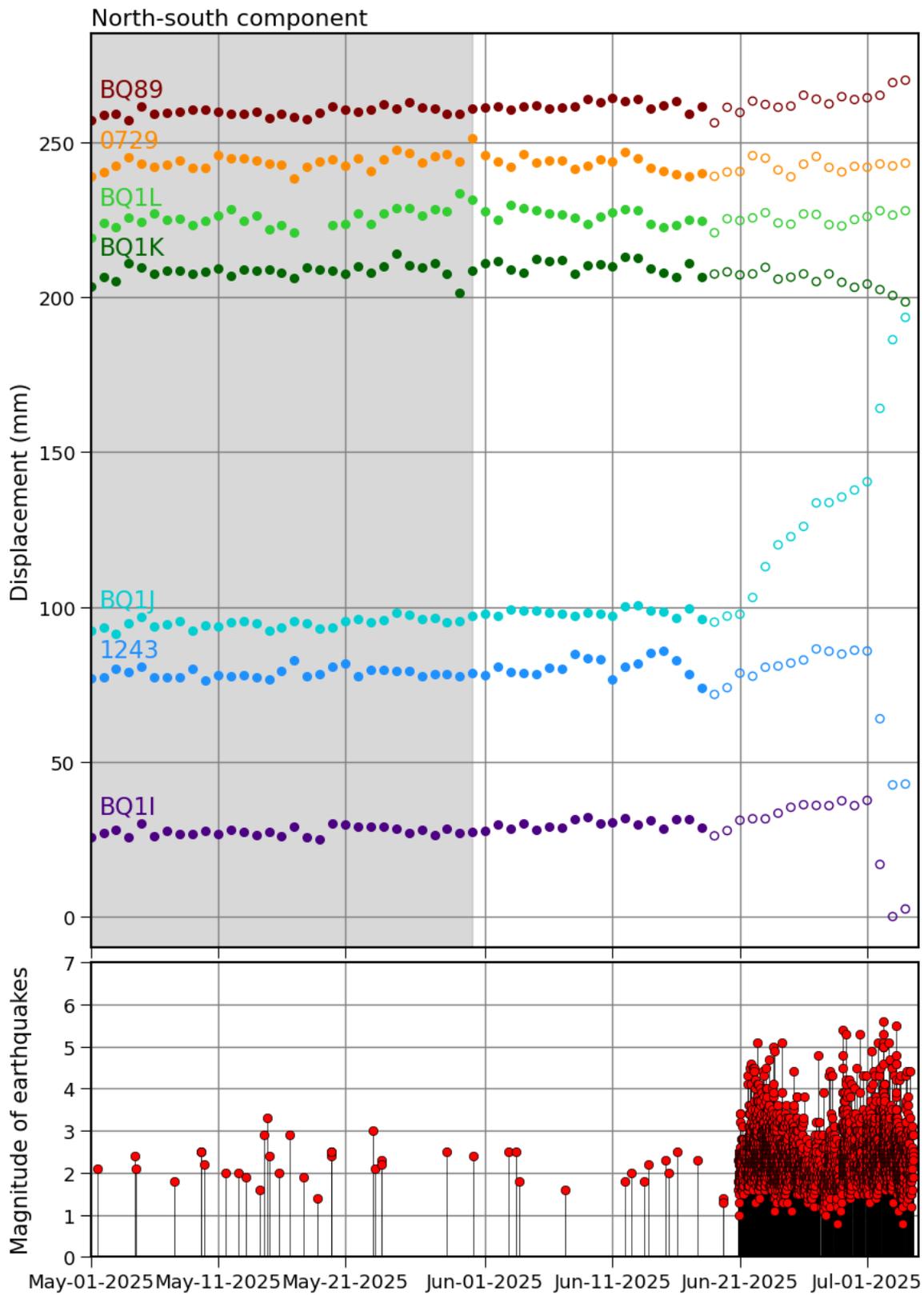


図 2 (b) 各日の座標値 (南北成分) を丸いシンボルで示す。他の表記は図 2(a)と同じ。

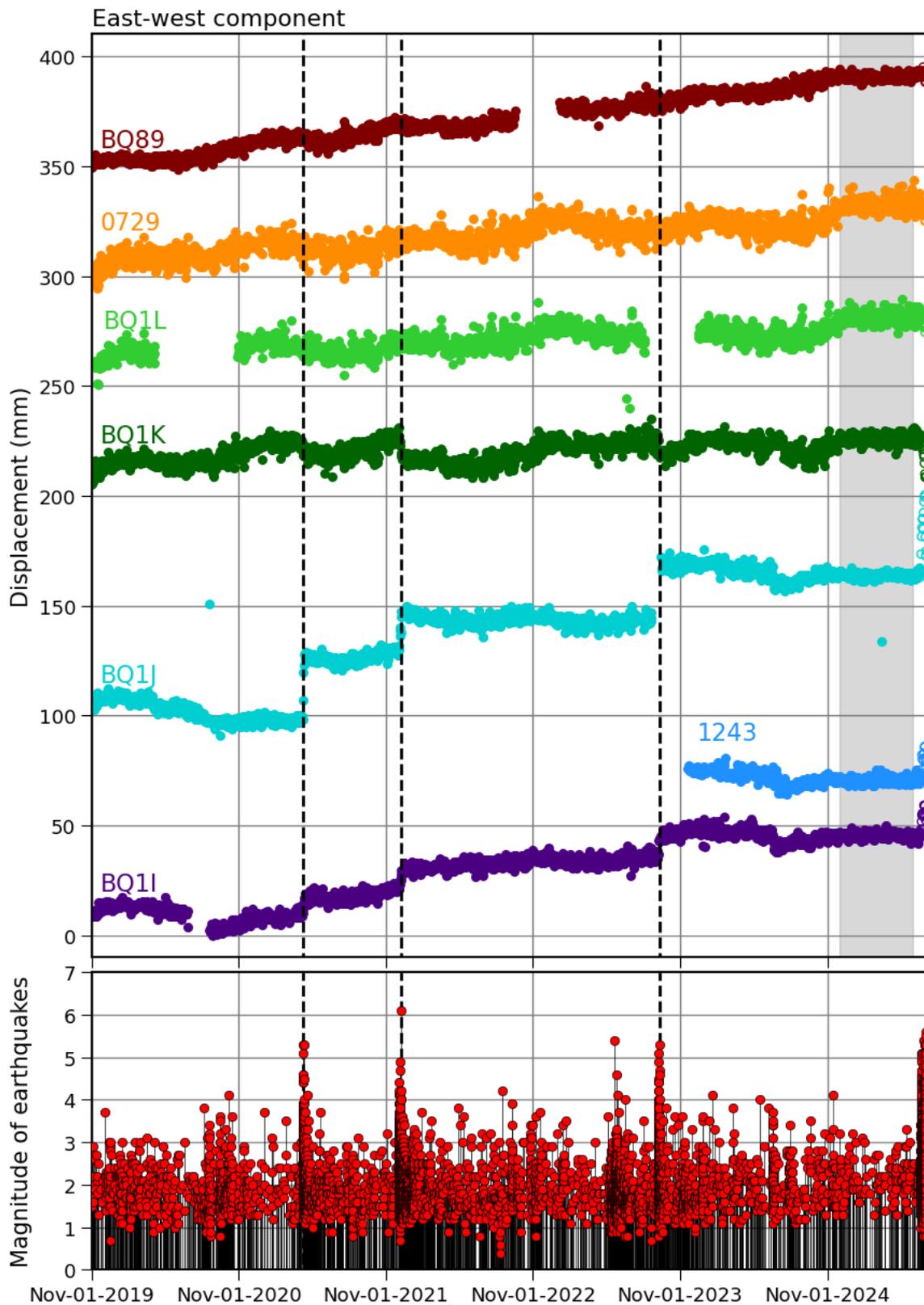


図 3 (a). (上パネル) 2019 年 11 月以降の各日の座標値 (東西成分) を丸いシンボルで示す。濃い色で塗りつぶされた丸は最終暦を、白抜きの丸は速報暦を用いて算出された座標値をそれぞれ示す。また丸の色の違いは、観測局の違いを表す。(下パネル) 図 1 の領域(東経 129 度から 130 度, および北緯 29 度から 30 度の矩形領域)内で発生したマグニチュード 0 以上の地震の M-T 図。図の作成には気象庁一元化震源カタログを用いた。図中破線は地震活動が活発化した位置と GNSS 時系列に対応が目視で確認できた点を示す。

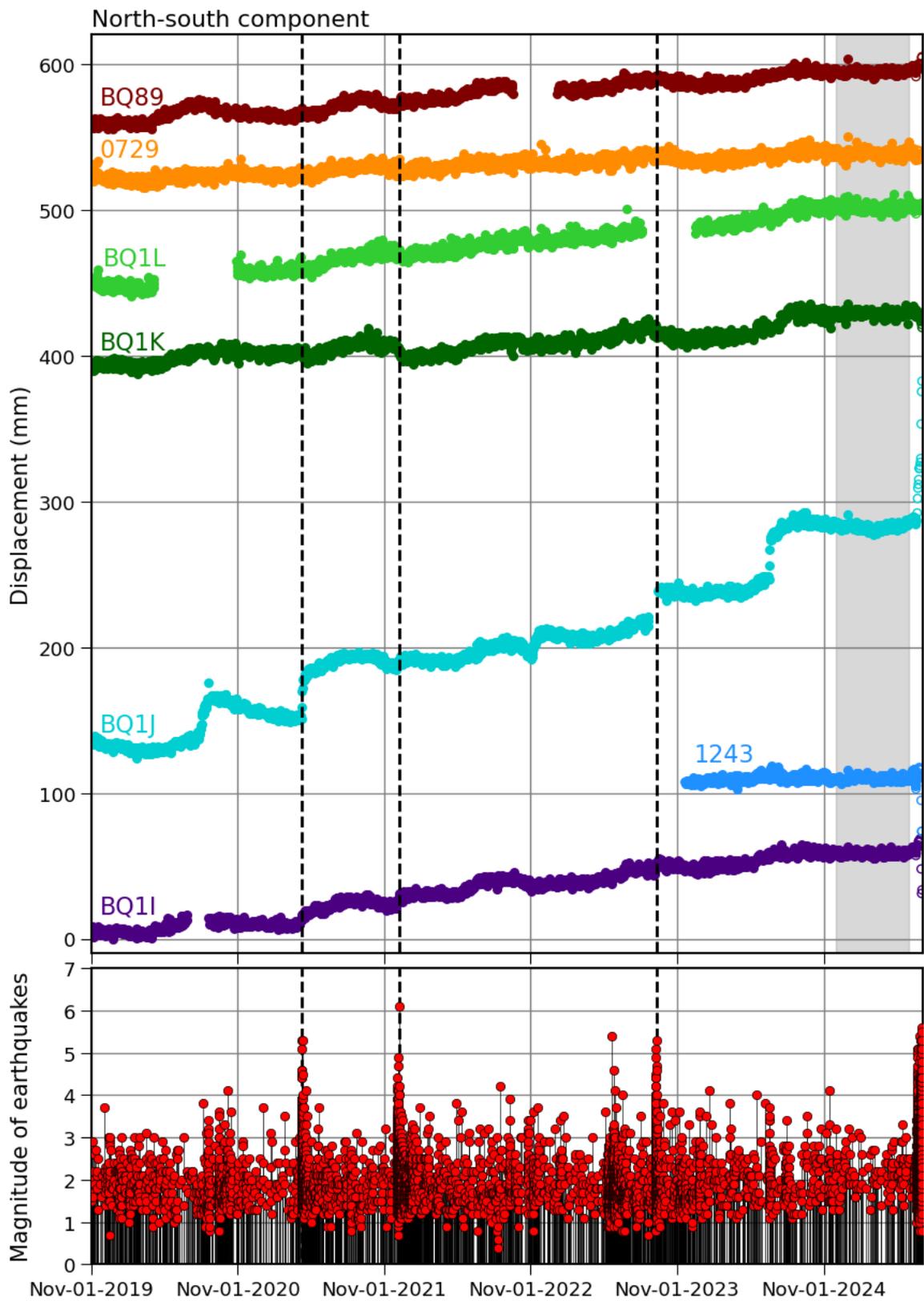


図 3 (b). (上パネル) 2019 年 11 月以降の各日の座標値 (南北成分) を丸いシンボルで示す。他の表記は図 3(a)と同じ。

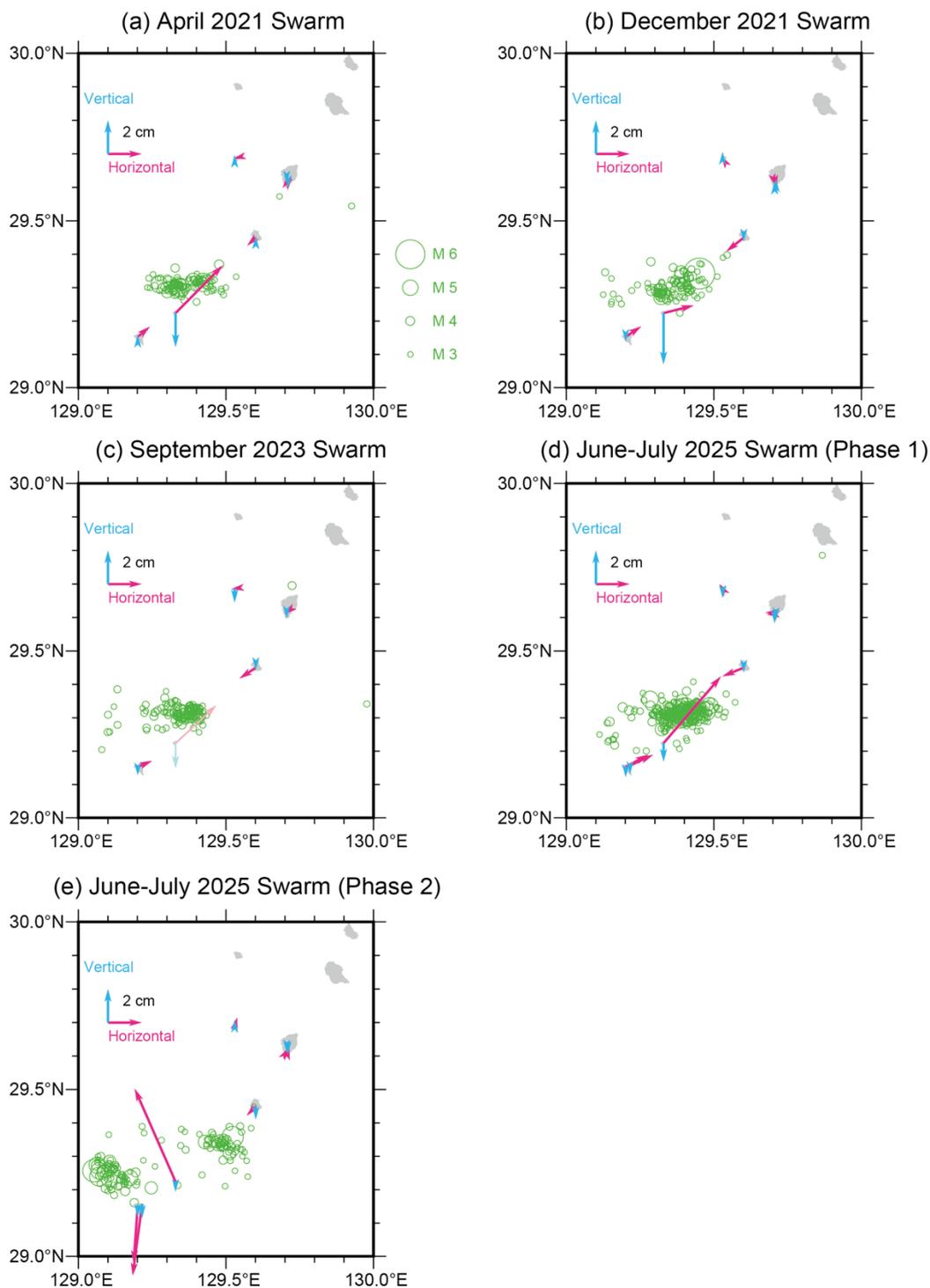


図 4. (a) 2021 年 4 月イベント時の変位ベクトル場。2021 年 4 月 15 日から 4 月 24 日の平均と 2021 年 3 月 30 日から 4 月 8 日の平均の差から計算した結果。あわせて 2021 年 3 月 9 日から 5 月 9 日に発生したマグニチュード 3 以上の地震の震央を描画している。(b) 2021 年 12 月イベント時の変位ベクトル場。2021 年 12 月 21 日から 12 月 30 日の平均と 2021 年 11 月 21 日から 11 月 30 日の平均の差から計算した結果。あわせて 2021 年 11 月 9 日から 2022 年 1 月 9 日に発生したマグニチュード 3 以上の地震の震央を描画している。(c) 2023 年 9 月イベント時の変位ベクトル場。2023 年 9 月 21 日から 9 月 30 日の平均と 2023 年 8 月 11 日から 8 月 22 日の平均の差から計算した結果。同期間において BQ1J で欠測があったため、観測データが存在する前後から変位量を計算した。また、欠測のあった BQ1J の変位を薄い色で示している。あわせて 2023 年 8 月 10 日から 10 月 10 日に発生したマグニチュード 3 以上の地震の震央を描画している。(d) 2025 年 6 月イベント(Phase 1)時の変位ベクトル場。2025 年 6 月 29 日から 7 月 1 日の平均と 2025 年 6 月 11 日から 6 月 20 日の平均の差から計算した結果。あわせて 2025 年 6 月 20 日から 7 月 1 日に発生したマグニチュード 3 以上の地震の震央を描画している。(e) 2025 年 6 月イベント(Phase 2)時の変位ベクトル場。2025 年 7 月 4 日の座標値と 2025 年 6 月 29 日から 7 月 1 日の平均の差から計算した結果。あわせて 2025 年 7 月 2 日から 7 月 4 日に発生したマグニチュード 3 以上の地震の震央を描画している。